

赤信号 高齢者のほうがイライラ 名大グループ

高齢者ドライバーは、若者よりも赤信号でイライラしがちに。名古屋大学院情報学研究科の川合伸准教授（認知科学）らのグループは、運転シミュレーターを使った実験で、高齢者が若者と比べ、赤信号で停車させられることに怒りを感じやすい傾向を明らかにした。研究成果は国内の心理学誌に掲載される。

実験には高齢者二十人（平均七〇・二歳）と、名大の学生二十二人（同二二・七歳）が参加。シミュレーターで六基の信号機があるコースを再現し、最初の四基が青の場合と、赤の場合の心理状態を比較して調べた。人が怒りを感じている時、脳の前頭葉の左側が右側より活性化した状態にあることが分かっている。グループは、頭の左右に血流量を示す酸化ヘモグロビンの測定装置を取り付けて調べた。

その結果、赤で停車した時、学生は左右の数値にほとんど差はなかったが、高齢者は左の数値が増えた。

また、情報処理と実行の速さなどを測るため、数字と平仮名をばらばらな位置に書いた紙に「1↓あ↓2↓い↓3」の順に線を引くテストをしたところ、時間がかかった高齢者ほど「怒り」の傾向が強く出ていたという。高齢者も若者も、青信号の時は左右に差が出なかった。

神奈川県では五月、女性（カ）の乗用車が赤信号になったばかりの交差点に進入し、横断中の四人が死傷する事故が起きている。川合准教授は「年齢を重ねれば、運動能力とともに感情を抑制する能力も衰えることを自覚して運転してほしい」と話している。